

(神戸・須磨)

兵庫・兵庫津遺跡

1 所在地

- 一 兵庫県神戸市兵庫区西出町
- 二・三 兵庫県神戸市兵庫区七宮町

2 調査期間

- 一 西出地区 一九九四年(平6)九月～十一月
- 二 七宮地区第二次確認調査 一九九七年一二月
- 三 七宮地区全面調査 一九九八年六月

3 発掘機関

4 調査担当者

- 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
- 一 岡崎正雄、二 水口富夫
- 三 小川良太・水口富夫・深江英憲

5 遺跡の種類

集落跡

6 遺跡の年代 江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

兵庫津は現在の神戸港の前身にあたり、遺跡は神戸市兵庫区、旧湊川河口の砂堆上に位置する。奈良時代に大輪田泊と呼ばれ、平安時代末期には平清盛により

日宋貿易の拠点として整備され、鎌倉時代から近世に至るまで、瀬戸内航路の中継基地として発展してきた。兵庫津より東の諸港は大河川の河口に位置しており、水深が浅く大船の寄港には不向きである。そこで、兵庫津は大型船の終着点として、尼崎や神崎川・淀川に向けて航行する小型船に積み替える場所であったらしい。「兵庫津元禄絵図」「岡方文書」などの近世の絵図が残っており、港町の町割りや港湾施設などの詳細な情報が知られ、近世の兵庫津の研究が進められてきた。

兵庫津遺跡は、一九八八年度の大手前女子大学による調査に始まり、神戸市教育委員会、兵庫県教育委員会などによって、これまでに二〇次を超える調査が実施されている。本稿で報告するのは、国道二号線の共同溝整備事業に伴う調査であり、交通量の多い幹線道路である現国道下を調査した。一部、震災復興調査として実施され、他府県より派遣された支援職員も加わった調査となった。

木簡は、西出地区から一点(付札)、七宮地区の東調査区から用途不明墨書木製品一点、西地区から墨書木札五点、あわせて七点が出土した。

西出地区(I―Ⅴ区)で木簡が出土した遺構は、最下層面の池状遺構SX〇二である。SX〇二は、検出延長東西四・五m南北三・六mでおそらく楕円形を呈していたと思われる。検出面からの深さは約一mである。南側の護岸材には、和船材(舷側)を転用してい

る。遺構の最下層に沈殿した木質層とその上の砂層中から、漆器
碗・箸・下駄などの大量の木製品、肥前陶磁器類・丹波焼・漁具
(蛸壺・土鍾)・鞆の羽口が相伴した。時代は江戸時代である。

七宮地区の東地区では、新旧の石垣と入江側の調査を行なってい
る。花崗岩の新石垣の時期は、一九世紀前半以降で、それに伴う入
江内から、陶磁器、銅貨とともに木製品が出土し、その中に一点、
墨書のあるものがあつた。

七宮地区の西地区では、石垣と裏込め、入り江内の調査を実施し
ている。石垣は上下で石積みが異なっており、石垣の下二段分に堆
積した砂層から、箸・杓子・桶材・飲み口・栓・曲物・箱材などと
ともに墨書木札が五点出土した。これより上は埋土で、陶磁器類や
真鍮製煙管、硯など、江戸時代から明治時代の各種の遺物が大量に
出土している。

8 木簡の釈文・内容

一 西出地区

- (1) ・「 \vee 」
・「 \vee 」
(103)×31×9 039

表裏に墨書が残るが、判読できない。

二 七宮地区 (第二次確認調査)

- (1) 「 $\square\square\square\square$ 」^{〔支カ〕}
(227)×58×7 065

三 七宮地区 (全面調査)

- (1) ・「 \vee 」^{上三草村}
当納米主安右「 $\square\square\square$ 」
・「 \vee 」 $\square\square\square\square\square\square\square\square$
127×24.5×4 033

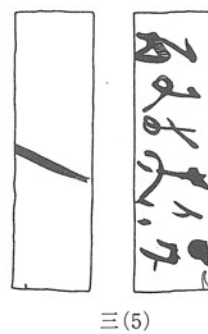
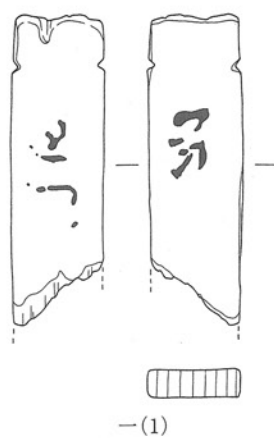
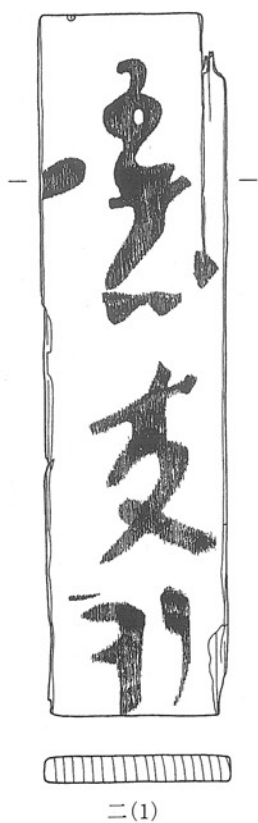
- (2) 「田中利左衛門」
126.5×(37.5)×2.3 081

- (3) 「 $\square\square\square$ 」^{〔釣道具カ〕}
190×(25)×4 081

- (4) ・「 $\square\square$ 」
・「 $\square\square\square$ 」
200×(28)×2 081

- (5) ・「 $\square\square\square\square\square\square$ 」
・「 $\square\square\square$ 」
25×92×6 011

(1)は、北播磨の内陸部にある加東郡上三草村の「安右 $\square\square$ 」が米
を納めた事を記した付札と考えられる。加古川水系を舟運により河
口まで運び、さらに兵庫津まで米を運んだことを示す興味深い史料



である。(2)は左側辺が剥離している可能性がある。(4)の下端には横方向の圧痕がある。(5)は判読不能であるが、横方向に文字が書かれていると考えられる。

木簡の釈読に際しては、兵庫県立歴史博物館の小来栖健治氏、松井良祐氏のご教示を得た。

9 関係文献

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所『兵庫津遺跡Ⅰ（西出地区の調査）』（兵庫県文化財調査報告一四三、二〇〇二年）

同『兵庫津遺跡Ⅱ（浜崎・七宮地区の調査）』（兵庫県文化財調査報告一七〇、二〇〇四年）

（菱田淳子）

堺市教育委員会

『史跡土塔―文字瓦聚成―』の刊行

大阪府堺市にある「土塔」は、神亀四年（七二七）に行基が建立した大野寺にある土で築いた仏塔である。このたび発掘調査で出土した文字瓦に、全国各地で所有・保管されている文字瓦を加えた一二〇〇点余りの釈文を収録した報告書が刊行された。土塔の文字瓦を聚成したのはこれが初めてである。考察には網干善教、森郁夫、東野治之、近藤康司、岩宮未地子の各氏の論考を掲載する。行基の活動を直接的にうかがうことのできる文字資料として価値は高い。

A4判一九一頁 二〇〇四年三月刊 頒価四八七〇円

頒布連絡先

堺市市政情報センター

電話〇七二（二三八）七四三九（郵送取扱あり）

堺市博物館

電話〇七二（二四五）六二〇一（直接販売のみ）